

東京バッハ合唱団 月報

[第 509 号] 2004 年 11 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky.3Web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO
Monthly Newsletter No.509
November 2004

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

無知の罪

もはや、無批判の中立は許されない

大村 恵美子

世の中のことについて、すべての正解を知り、真相を見きわめることはできない。しかし、私たちが良心と善意にしたがって生きようと強く願いながら、こうまでも意に反した生き地獄のような社会的事件をつぎつぎと引き起こす 21 世紀を迎えてしまったのは、なぜなのか。

20 世紀は戦争と殺戮と環境破壊の、最悪の世紀だった。21 世紀になれば、心を新たに、人類は今こそ大きな反省の上にならば、英知を結集した平和実現の道に踏み出すのではないか。そういう世界中の人々の悲願と期待は、最初の 4 年間で、無残にも打ち砕かれた。これまでに見たこともないような、想像を絶する悪魔的事件が、地球の至るところに、毎日のように発生しつづける。

戦争は長くつづく、と超大国の指導者が悦ばしげに宣言する。一刻も早く終結させなければならない、という、ごく当然な決意もなしに、姿なき敵に向かっての「かかってこい」ばかりが連発される。そしてその掛け声に、万雷の拍手を送りつづける大衆がいる。

戦争をしかけた側に正当性がないという証拠がどれほどあがっても、いったん燃えついた「やっつける」の昂揚は、もう収まるすべを知らない。ヒトラーの煽情に燃えあがったかつてのドイツの善男善女たちの再現である。

かつてゲッターに閉じ込められ、絶滅収容所に追いこめられていた人々が、いまや隣人の土地に高々と包囲壁を築いて、生活の基盤を根絶やしにしようとしている。

北オセチアの小学校の、あの絶句するほどの生き地獄、あの惨劇が見せつけたものは何か。強者の、情け容赦もない暴力による威圧占領をこうむった人たちの悲鳴が、どこまでエスカレートして、鬼気せまる仕返し報復を思いつかせ、人間の域を脱した行為へと押しだされてゆくのか、どれほど酷い痛めつけが、あれほどまでの無軌道へと人間をおとしめてしまうのか、その底深さを思う。

「テロ」と呼ばれるほとんどの破壊行為は、生まれつきの悪人のような少数者たる「ならず者」の奇行ではない。かならず、弱者の限りない絶望が、怨念が、

そこには渦巻いているはずだ。

世の識者たちは、「どうして?」という人々の切実な疑問に対して、いろいろと、事件の発生した経緯を説明し、その必然性を指摘し、「だから、どうしようもないのだ」と突き放す。

アメリカは、9・11 に対する恐怖から、何年かかっても世界中からテロを絶滅させるまで、自衛の先制攻撃にさえ出ようと決意したのだ。

イスラエルは、先住民を追いはらって、敵のど真ん中に国を立てたのだから、強行政策を引っ込めれば国が存続できないからと、まわりの人々の権利を蹂躪してでも自国の存在をまもり通す。

ロシアは、かつてソ連邦として強硬手段で拡張統合した周辺諸国が、つぎつぎに独立しようとしているのを、これ以上 1 国でも認めれば、いよいよ瓦解する。だから、抑えつけに刃向かうものは、ことごとく「テロリスト」として壊滅させるしかない。

.....このような、それぞれもったもなしな立場から、惨劇はつねに意表をついた新装のもとに拡大展開するのである。私たちは、個々の事情を知らなければ、どちらの側にも相応の言い分があって衝突が起きるのだとわかり、手も足も出せない気分になる。いっそも知らず、複雑な問題には立ち入らず、平和を唱え、暴力反対を叫び、中立にとどまっていようと日常生活に埋没する。

だがもうそれでは駄目なのだ。人間は無知にとどまることで、人を殺す側に組み入れられ、中立にたたくむことでエゴの強力な攻撃を呼び込んでしまう。絶滅する動植物を目の前にしながら、放置するのと同じ。摘み取るものを抑え、保護育成の手を差し出さなければ、今すぐにでも草木や動物は根絶やしになる。

でも、人間社会では、どちらにも言い分があるから、判断が難しいとって立ち止まるのか。いや、私たちは判断しなければならない。儲けよりも人命を、国の損益よりも住民の存続を、同類の仲間擁護よりも差別なき人権尊重を、富めるものの満足よりも声の伝わらない底辺の人々の希望を、つまり、どんな問題についても、優先順位を、私たちはすでに心の底で知っているのである。この先験的な知は、宗教、環境、教

育その他、幾層もの相違に厚くうずもれていようとも、かならず掘り出せば、各人の心の底に生きている。

私は、フランスの公立学校で、イスラム教徒の女子のスカーフ禁止問題がもちあがった当初から、深い関心をもっていった。これが流血なしに決着できるのかどうか注目していた。ついに禁止が決定し、イラクの武装集団が、これを取り下げなければ人質を殺すとまで脅したが、フランス・イラク双方に住むアラブ人たちの同意も得て、禁止の施行が実現した。いまのところ、これに関して、流血の事態は報じられていない。

このようにして、長い時間をかけた討議によって、一つ一つの問題は克服されてゆくのである。それには、武力の先制攻撃に走るよりも、よほど強力な忍耐と英知が要求される。しかし、21世紀人には、この方向しか是認されるべきでないといみんなが決意してこそ、20世紀の蛮行を雪辱する道は開かれるのではないか。国益といえど何でもまかり通り、それが他の損益と当然ながら衝突するのを、仕方がない、戦争は世の中からなくなるものではない、他の解決方法は知らない、と言いつつ通すことは、もう許されない。

年をとってくると、世の中はいつもこんなもの、災害が耐えられなくなるころには、自分はもう死んでいる、あとはいいようにやってください、というニヒリズムの投げやりな支配されがちである。しかし、余命が少ないほど、もう失うものはないのだから、人間らしく言うべきことを伝え、なすべきことに手をつけて、残る子どもたちに、託すべきものをしっかりと渡してゆこう。こんな修羅場にすまわす世を去ることを恥じよう。

追記。これを書き終えたあと、2004年8月20日に発行された『ヨーロッパとイスラム』（内藤正典著、岩波新書）を読んだ。

前述の公立学校でのスカーフ禁止問題も、かなり詳しく論じられている。しかし私がまず感じるのは、女性が暑さのなかを、布で長時間、身体中や頭部をおおう場合の現実的な生理的苦痛と心理的圧迫感については、一言も言及されていないこと。戦時中の学校で制服の窮屈さ、不潔さに辟易した私には、戦後の世界でいまだに制服を強制し、またむしろ愛用する人々までいるということの不思議さには、とても理解に絶するものがある。

(ファッション上の選択は別次元として、)心のなかに宗教なり道徳なりの厳しい規制が存在するのでなければ、女性も男性と同様、身体的自由解放に快感をおぼえないわけがない。男性の側からの理由で、スカーフその他が押しつけられていることを、はっきり申し立てる立場に、全世界の女性が足並みをそろえれば、と思わずにはいられない。

ともあれ、ごく最近のデータまで入れて、世界での「共生は可能か」(同書の副題)という焦眉の急の課題

を紹介しているこの新著は、私たちに不可欠な道しるべの役割を果たしている。

力行祭コンサートのご案内

国際協力事業の推進などを目的とする財団法人日本力行会が、創立を記念して毎年開催している「力行祭」に、今年は私たち東京バツ八合唱団をお招きくださいました。

当日は、創立107周年の記念式典にひきつづき、メッツォ・ソプラノの鐘ヶ江由貴子さんのソロと私たちの合唱、内山亜希さんのピアノによる、すべてバツ八音楽のコンサートが開催されます。

客席に多少の余裕があるそうです。入場無料。また模擬店で飲食も可能とのこと、ぜひお出かけください。

日時：10月23日(土)午後2時30分～3時30分

(記念式典は午後1時30分より)

場所：(財)日本力行会国際館ホール(下図)

プログラム：J.S.バツハの独唱曲と合唱曲

第1部 独唱＝鐘ヶ江由貴子(メッツォ・ソプラノ)

《クリスマス・オラトリオ》BWV248より

アリア *Bereite dich, Zion* 備えよシオン (Nr.4)

アリア *Schlafe, mein Liebster* 眠れいとしきみ子よ (Nr.19)

アリア *SchlieÙe, mein Herze* 秘めよわが魂 (Nr.31)

第2部 合唱＝東京バツ八合唱団(大村恵美子指揮)

カンタータ第30番《喜べ 救われし民》BWV30より

合唱 喜べ 救われし民

アリア *来たれ アダム*の末なる民(アルト斉唱)

コラール 荒野に呼ばわる

カンタータ第78番《イエス わが心を》BWV78より

合唱 イエス わが心を

二重唱 急ぎゆかん(ソプラノ/アルト斉唱)

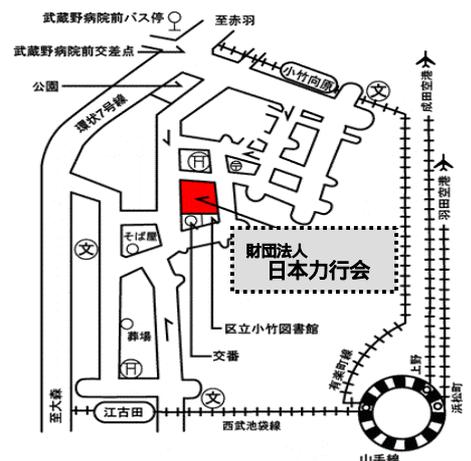
コラール 弱きわが心 強めたまえ

《クリスマス・オラトリオ》BWV248より

合唱 あまつ君よ 聞きたまえ (Nr.24)

会場のご案内

- 地下鉄有楽町線
「小竹向原」駅下車
2番出口 徒歩5分
- 西武池袋線
「江古田」駅下車
北口 徒歩5分
- 関東国際興業バス
「武蔵野病院前」
下車 徒歩5分



野尻湖 Photo Album 2004

写真 松尾茂春(団員)



黒姫山を望む



ソロカンタータ演奏の佐々木まり子さん



左から橋本眞行さん、光野孝子さん、内山亜希さん

演奏曲目解説

(第97回定期演奏会、2005年5月15日予定)

カンタータ第147番《心と日々のわざもて》

Herz und Mund und Tat und Leben BWV147

訳詞と解説：大村恵美子

初演：1723年7月2日(マリアのエリザベト訪問の祝日)、ライブツィヒ。

バッハの全カンタータの中でも、もっともポピュラーで、どのジャンルの音楽界でも愛されているコラール イェス わが魂の歓び (Martin Jahn „Jesu, meiner Seelen Wonne“ 1661, 旋律：わが心はずめ (Johann Schop „Werde munter, mein Gemüte“ 1642)が、すばらしいオーケストレーションとともに、2回も現われるのが、このカンタータである。全体は2部に分かれた10曲からなり、演奏時間35分を要する大掛かりな作品である。

イエスを身ごもっているマリアが、親戚のエリザベトを訪ね、これもすでにエリザベトの胎内にあったヨハネが喜んで躍動した。マリアは、神をあがめて讃歌をとなえた、というルカ1:39-56の聖書の個所で、神の恵みに対する人間の応答が、全曲を通じて積極的に歌われる。

10曲の配置は、次のとおりである。

第1部	第2部
1) 合唱	
2) レチタティーヴォ(T)	
3) アリア(A)	7) アリア(T)
4) レチタティーヴォ(B)	8) レチタティーヴォ(A)
5) アリア(S)	9) アリア(B)
6) コラール(第6節)	10) コラール(第16節)

第1部

1) 合唱と2) レチタティーヴォが第1部の始めにおかれ、あとは、3)~6)と7)~10)とが、曲種の同じ順に配置される(アリア-レチタティーヴォ-アリア-コラール)。そして第1部、第2部とも同じ音楽(上記コラール)で結ばれている(ただし歌詞は、6)第6節、10)第16節)。

1. 合唱 心と日々のわざもて 主の証しとなさん

コラールとは関係のない独自の作曲で、八長調4分の6拍子。トランペットのファンファーレに導かれて、オーボエ2、弦合奏、通奏低音が生き生きとした前奏で合唱を誘い入れる。あとのコラールがあまりにも有名なので、この冒頭合唱に注目を怠りがちな人々もあるようだが、この曲もまた非常に特徴的なもので、私

などは、例のマックス・ヴェーバーの説いた、プロテストантиズムとその職業(召命)意識との関連に思いついたとき、この音楽を想起するほどである。疑いをはさむ余地のない勤勉さ、心・ことば・行為・生活のすべてが、この世にあって神の証しとなるべきだという姿勢(S.フランクの詩にもとづく)が、1)を始めとして、3)、5)、7)、9)の各アリアでくり返される。

2. レチタティーヴォ(テノール) 幸なる口よ マリアは語り始めぬ 感謝をもて

アリア4曲と交互にある3曲のレチタティーヴォは、この日の筋を追って、マリア、エリザベト、ヨハネのことを物語る。2)ではマリアが主人公。

3. アリア(アルト) まどわず 心よなが主を証しせよ

第1部の3)と5)に現われるアリアは、2曲とも女声(アルト、ソプラノ)で、短調(イ短調、ニ短調)の、心の内面で訴えるような歌である。この3)は、オーボエ・ダモーレ、アルトと通奏低音のトリオ楽章で、主を証しせよと歌う。

4. レチタティーヴォ(バス) とうとき主の腕(かいな)すらも

『マリアの讃歌』のなかの「心の念いに高ぶる者を散らし、ちから(権勢)ある者を座位(くらい)より下し、卑しき者を高うし」(ルカ1:51-52)から発想をうけ、

備えせよ いまこそ救いするとき と促す。通奏低音のみだが、要所所で写実的な動きをとる。

5. アリア(ソプラノ) 備えたまえ 主の道を

ヴァイオリン独奏の3連符が間断なくソプラノを先へ先へと導いて、備えたまえ 主の道へ 向けたまえ 恵みのなが眼差しを と、イエスに対する懇願のかたちで、ソプラノは可憐な歌をうたう。つづく6)が、同じく3連符の器楽にのせてコラールを奏でるが、その先駆的な音楽となっている。

6. コラール 主は われにいます

オーボエ2、弦合奏と通奏低音の、4分の3拍子(エラー! リンクが正しくありません。は8分の9拍子。オーボエと第1ヴァイオリン声部)の流麗な前奏から、イエス讃歌の4声体コラール(トランペットが主旋律を補強)が湧きあがる。ヨハン・ショッパのこの旋律は、夕拝讃美歌として『讃美歌21』にも収載されており(第215番「心はずませ み前に進もう」)、また《マタイ受難曲》にも用いられているが(第40曲 主を離れしわれ ふたたび帰りゆく)、このカンタータの3拍子と3連符多用の編曲があまりにも個性的なので、同じコラール旋律とは気づかれないほどである。

第2部

7. アリア(テノール) 主イエスよ み力を賜え

主イエスよ というテノールの呼びかけと同じ、通奏低音のユニゾンから始まり、主を証しする われにみ力を与えたまえと訴える。チェロがまた5)、6)にひきつづきエラー! リンクが正しくありません。を重

ねて、たえせず心を燃やさん という結尾に向かってヴォルテージを高めてゆく。

8. レチタティーヴォ(アルト) いと高き者は ひそかに働きたもう

オーボエ・ダ・カッチャ2をともなった、27小節もあるレチタティーヴォで、ここでは胎内のヨハネが主人公である。母エリザベトが神の奇蹟のわざを言い表し、マリアが唇の献げものとして『讃歌』を唱えたとき、まだこの世に生まれ出る前のヨハネまでが、胎内で喜び躍る。3度・6度音程でびたりと寄りそって動く2本のオーボエ・ダ・カッチャが、将来の洗礼者ヨハネとイエスの協働関係を暗示する。

9. アリア(バス) 主のみわざを歌わん

第2部の7)、9)、2曲のアリアは、いずれも男声(テノール、バス)・長調(2曲とも八長調)で、第1部の女声・短調と対照的につくられている。

トランペットの力強い歌い出しを、バスがくり返し、オーボエ2、弦合奏、通奏低音とで、曲全体の結論を、休まない勤勉さをもって展開させる。1)冒頭合唱の雰囲気再現だが、もはやなすべきことは、個々の行為ではなく、神への信頼と讃美のみである。主の約せし愛は 弱き身と口をきよき火もて強めん。

10. コラール イエス わが喜び

第1部の終結コラール6)と同じイエスへの愛の讃歌だが、全体の最後では イエス 君のもと われは離れじ と、熱烈な告白、そして器楽後奏の余韻をもって、長大なこのカンタータは終わりをとげる。生活のなかに沸々とよみがえっては、私たちを明るくし、励ましてくれる名曲である。

バッハ・カンタータ50曲選

出版ニュース(最終回)

このたびの第5期発行をもって、全50曲の完結に至りました。10月初旬より、順次みなさまのお手元にお届けいたします。

この間、多くの皆様より厚いご支持と激励をいただきました。この遠大な企画に対し、白紙のうちから全巻の予約をしてくださった方々、出版債券のかたちでご支援くださった方々、また発行のつど真新しい楽譜を開いて一緒に歌ってくださり、演奏に加わってくださった皆様、ありがとうございました。

バッハと同時代に創業した伝統あるブライトコップ社の版に、バッハ没後250年を記念して、待望の日本語版を加えることができました。今後は、このシリーズを用いての日本語演奏の普及にも、いっそう力を入れていきたいと思っています。

また、この「50曲選」のCD化を進めております。現在全20巻のうち8巻が発行済みで、年に4巻ずつ、2007年完結予定です。ひきつづき、皆様のお力添えをお願い申し上げます。